



「安全は扇の要」

安全を科学して現場を見守ろう

株式会社ミライト・ワン

1. はじめに

株式会社ミライト・ワン（以下ミライト・ワン）では事業活動を展開する上で守るべき安全とコンプライアンスの方針を明確化するために、2022年7月1日、「ミライト・ワングループ安全・コンプライアンス憲章」を制定しました。

ミライト・ワングループで働く全員が、本憲章に基づいて、安全の確保とコンプライアンスの徹底に取り組むことにより、広く社会の皆さまから信頼され続ける企業を目指すとともに、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

本憲章内にあります、「安全・品質の確保」は、企業経営の要であることを肝に銘じ、社長をはじめとする幹部が日頃から積極的に現場に足を運ぶなど、最優先課題として日々取り組んでおります。

2. NWカメラを活用した現場の安全見守りの取組み

ミライト・ワンでは過去に発生した事故を教訓とし、現場を1人にせず、いつでも見守れることを目的に集約センタ、各拠点で連携したフォーメーションを構築し事故撲滅に向けた取組みを展開しています（図1）。

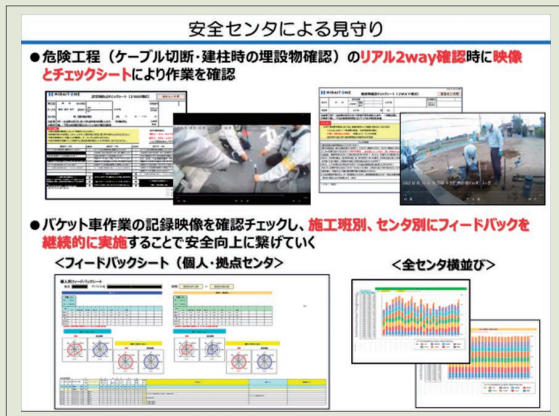
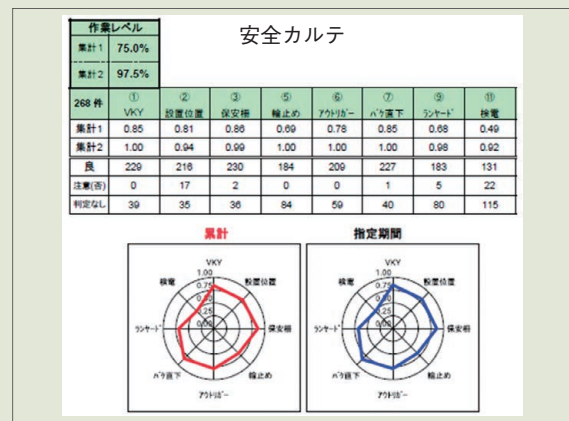


図1 安全見守りの取組み

取組みの内容としては、全拠点の作業映像を集約して確認できる安全センタ（以下、安全センタ）にてリアルタイムでの危険工程確認（ケーブル切断、埋設物確認等）、ノンリアルでのバケット車作業の安全確認を実施しています。

安全センタにおける危険工程確認においては、NWカメラを活用し、現場施工班とリアルタイムで手順や実施方法の2WAY確認を実施します。また、安全センタにて各班の状況をノンリアルで確認後に施工班ごとの安全カルテを作成し、傾向の把握や安全指導に活用しています。

各拠点ごとに設置している見守りセンタ（以下、見守りセンタ）でのリアル・ノンリアルでの安全作業確認（高所作業、安全措置等）を実施し、また各施工班へのフィードバックを実施するサイクルを回すことで、事故防止および継続的な安全意識の醸成を図っています。

見守りセンタにおいては、大型スクリーンにより各班の状況を事務所内で見える化を図り、リアルタイムでの指導等が必要な場合には、施工班に連絡し安全指導・注意喚起を実施しています。

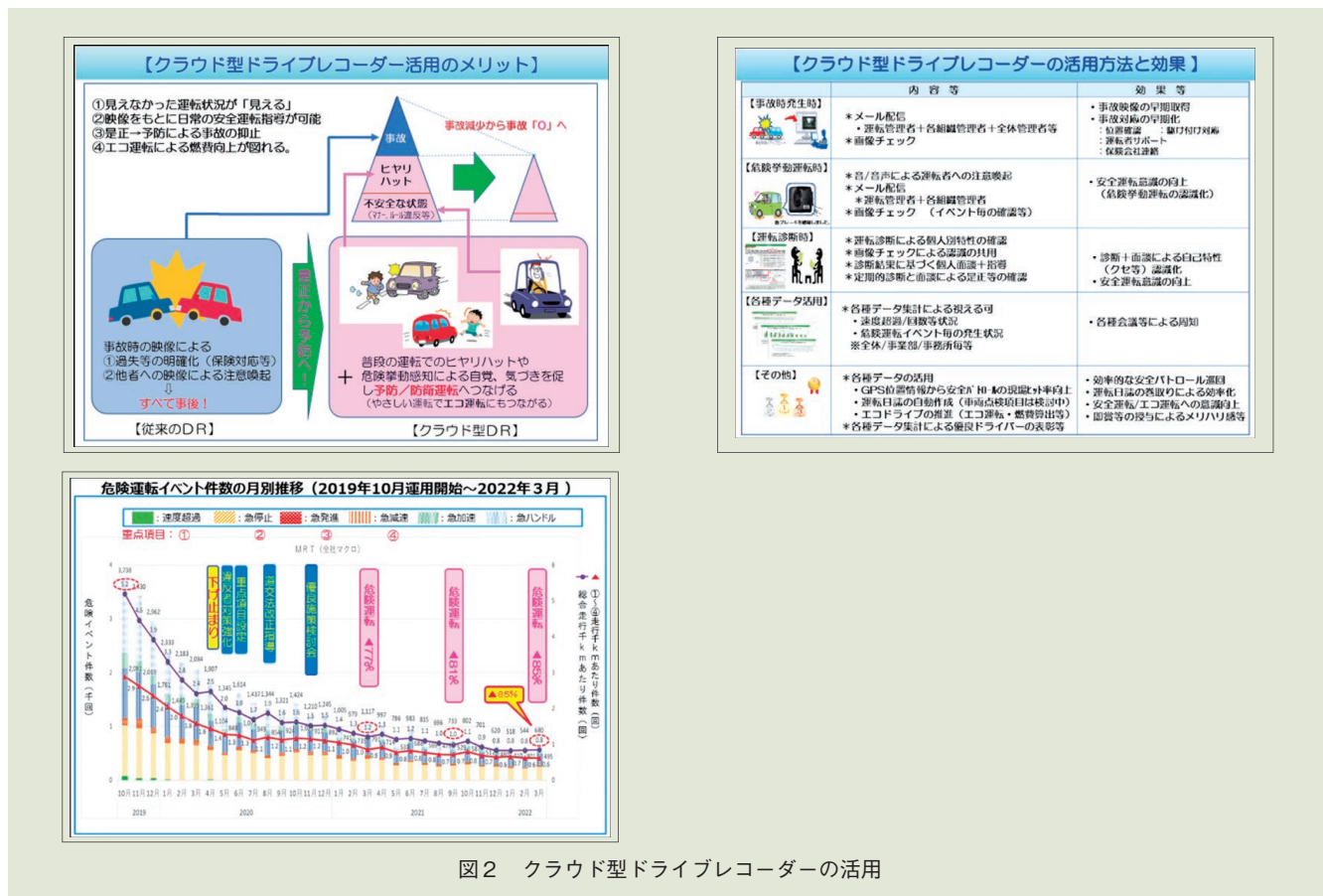
このような取組みにより現場とのコミュニケーションを活性化し、現場を守り・サポートする取組みを継続的に実施し、事故撲滅に向けて一丸となり取り組んでまいります。

3. クラウド型ドライブレコーダーを活用した交通事故防止の取組み

交通事故発生時におけるドライブレコーダー（以下、DR）は、事実確認に有効なものとなっていますが、原因究明に留まっており事故防止の観点から、日頃からの安全運転指導には不十分となっていました。

そこで、クラウド型ドライブレコーダー（以下、クラウド型DR）を導入することにより、危険運転通知での安全運転指導および事故発生時を含めた車外・車内の映像確認することを可能とし、交通事故の未然防止に取り組んでいます（図2）。

具体的な取組み内容としては、危険運転感知（速度超過・急停止・急発進・急減速・急加速・急ハンドル）の安全運転管理者等へのメール通知によるリアルタイム安





全運転指導およびデータ集計・分析による危険運転感知多発者への個別指導を実施することで運転者への安全運転意識向上を行っています。

これらの取組みによりクラウド型DR導入当初から比較すると危険運転感知が▲85%となり、交通事故の削減につながっています。

これまでの取組みを継続し、さらなる交通事故削減・防止に取り組んでいきます。

4. ミライト・ワン グループ安全大会

ミライト・ワングループでは、ミライト・ワン、並びに主要グループ5会社、さらには日頃それぞれの地域で働いているグループ会社、パートナー会社の経営層並びに安全管理者を対象とした「ミライト・ワングループ安全大会」を毎年開催しています。

ミライト・ワングループとして共通基盤的な安全取組みの説明や、主要グループ各社の優良安全施策事例の紹介や展開、安全対策の水平展開等、安全コミュニケーションの活性化を図っております。また、外部講師を招いた講演会による安全意識の再確認等、午後半日を費やして開催しております。

新型コロナの影響もあり開催を危ぶまれた年もありま

したが、従前の東西分散の大規模会場での集合開催から、Web会議を活用したりリモート分散開催に変更し、継続的に開催して参りました。2023年度はコロナも終息したことから、リモート開催の良い点を継承しつつ、かつリアル開催も復活させたハイブリッド型安全大会を開催し、ミライト・ワン本社ビルを本会場とし、全国377拠点をWebで結び、総勢2,000名が参加する大規模な安全大会となりました。

5. ミライト・ワン グループ クロスパトロール

ミライト・ワングループではグループ共通の取組みとして、年3回の事故防止強化期間を設定しており、期間中は主要グループ施工系社員、並びに子会社、パートナー会社の施工従事者全員の安全意識醸成と意識統一を図ることを目的とした安全ワッペンを着用、安全作業手順の再確認を目的とした脚立使用時の禁止事項を描いた8禁シールの年末一斉貼替えなどを実施しています。

その中でもミライト・ワングループ発足以降の新たな取組みとして注力しておりますのが、「ミライト・ワングループクロスパトロール」です(図3)。これは、事故防止強化期間中に主要グループ各社ごとにパトロー

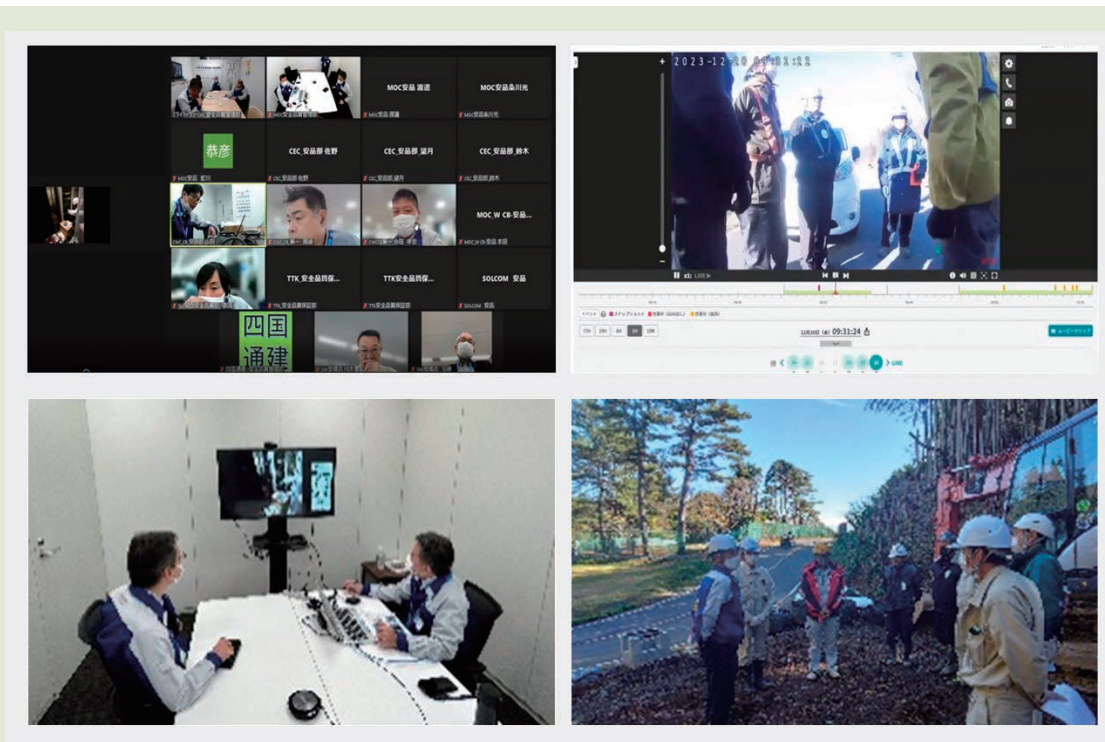


図3 クロスパトロール模様

ル対象施工現場を1カ所選定していただき、現地での対面型安全パトロールの他、ネットワークカメラやスマートフォン（Zoom等）を活用したリモート型グループ合同安全パトロールです。

従前の通信キャリア事業の現場のみならず、ICT事業、環境／社会事業、さらには建築／土木事業の現場までの事業クロスパトロールでもありますので、日頃の当たり前の自社目線では、十分に安全に配慮していると考えている作業現場でも、クロス目線を見た違った安全対策のアドバイス等、新たな気づきが多数あり、グループ全体の安全スキルの多様化／広角化が推進され、従前にも増して安全な施工現場へと進化を続けています。特に最近のパトロール現場の中にはグループ会社で施工している河川改良工事や駅高架化工事などの施工現場もあり、通信建設業界とは異業種の現場のパトロールを実施することができ、目から鱗の安全対策もあり大変参考になっています。

6. 大規模自然災害時の円滑な情報集配信

大規模自然災害の発生時に最も重要となる被災地の被害状況（社員安否、社屋、車両用会社設備の状況、施工エリアの被害状況等）を迅速、かつ正確に情報収集し、経営層をはじめ災害復旧支援に従事する組織の長等へ配信し、的確な判断材料を提供する事が必要となります。

2022年度まで弊社では、被災地域、会社などからメールや電話によって収集・集計した情報をメールや社内掲示板により災対メンバ等へ配信しておりましたが、効率性、正確性、さらには長時間広域停電発生状況で社内ネットワークが使えない場合は災害情報集配信ができないという致命的な課題が顕在化したことから、これらの課題を一気に解決することを目的として、2022年度末に「災害情報システム」を開発し導入しました（図4）。

「災害情報システム」は、災害時に稼働可能な災害対



各組織	社員数	未回答人数	本人ケガ（人数）		家族ケガ（人数）			家計対称数		
			有り	無し	有り	無し	不明	有り	無し	不明
合計	5151	256	6	4784	6	4639	319	13	4667	286
東日本NTT通信対応班	472	0	0	472	0	459	13	1	460	11
CEC_NTT事業本部	146	0	0	146	0	136	10	1	135	10
CEC_NWEG事業本部	165	0	0	165	0	165	0	0	165	0
CEC_土木事業本部	161	0	0	161	0	158	3	0	160	1
西日本NTT通信対応班	361	0	0	361	0	361	0	0	361	0
CWC_NTT事業本部	152	0	0	152	0	152	0	0	152	0
CWC_NWEG事業本部	136	0	0	136	0	136	0	0	136	0
CWC_土木事業本部	73	0	0	73	0	73	0	0	73	0
東日本ドコモ通信対応班	175	0	0	175	1	161	13	1	166	6
西日本ドコモ通信対応班	74	8	0	66	0	65	1	0	65	1
東日本キャリアビジネス通信対応班	339	0	1	338	1	319	19	2	321	16
西日本キャリアビジネス通信対応班	136	0	0	130	0	133	3	0	131	5
設備/自社サービス通信班	1045	168	1	876	1	854	190	3	854	188
北海道支店	43	0	1	42	1	42	0	1	42	0
東北支店	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栃木支店	19	19	0	19	0	19	0	0	19	0
茨城支店	30	0	0	30	0	30	0	0	30	0

掲示板名: 【訓練】首都直下地震20231207

操作	投稿日時	明/カンパニー	情報共有項目	内容
参照	2023/12/07 10:05:55	情報班 SLC_情報班	業務異動状況	電源、通信が確立確認済みのため、五反田火災本部 立ち上げ 高層COO、各部署は五反田ビル4階 4A会議室に集合 ●総務学生班 各拠点事務所からの連絡待ち 安否確認結果集計開始 ●自社設備班 5反1ビル、五反田NNビル、大宮光設機班事務所、 大宮OCN機班状況確認班 情報収集中 ●お客様設備班 新木場ビル、鎮西町ビル、東横町ビル、千歳支店、 横浜支店、沼津事務所、上川井事務所 情報収集中 関東エリアは問題なく通常業務中
参照	2023/12/07 10:05:53	神奈川支店	被害状況	被害状況 ・神奈川管内4センターにおける人的被害なし ◆建物/車両等の会社設備等 ・神奈川支店、横浜技術センターは停電中 ・各センターでは水道は現時点では使用可能 ・各センターでは水道は現時点では使用可能 ・県内の道路では、広域停電で通行が滞っているため、渋滞が発生
参照	2023/12/07 10:03:13	東海支店	物資支援要請	・水300本 (提供可) ・コメ300食 (提供可) ・レスキューシート170枚 (提供可) ・災害用トイレ100セット (提供可) ・カセットトイレ3台 (提供可) ・カセットトイレ45食 (提供可)

図4 災害情報システム



策メンバーの誰か1人が、ワンオペレーションで①災害情報掲示板の開設、②災害体制確立／参集通知メール発出が可能であり、クラウド上のシステム配置のため、海外を含めた冗長化が図られており信頼性も確保されています。

また、クラウド上のシステムであることから、ミライト・ワンだけでなくグループ全体での共用が可能であり、さらには会社PC、モバイルPCのみならずスマートフォンからも災害情報の参照、書込み、情報配信が可能であり汎用性と機動性にも配慮されています。本稿執筆時点で発生しております令和6年能登半島地震においても、地震発生後速やかにシステムを起動し、被災地の被害状況、発注者様からの支援要請、支援対応状況、不足物資の要請、支援物資輸送手配を実施しており、実災害での利用により効果が大きいことが確認されています。

7. 最後に

ミライト・ワンでは経営トップの安全に対する意識が極めて高く、さまざまなシーンで「安全は扇の要」、「安全を科学的にアプローチする」と提唱しており、ここでご紹介させていただいた「科学を用いた見守り施策と分析結果の活用」等の取組み推進により、2023年12月末時点で、ミライト・ワングループ全体の人身事故、設備事故、交通事故（加害）の件数はすべて前年同月比で下回っております。

ミライト・ワングループでは自分と家族、そして仲間を大切にする想いを込めた安全スローガン、「私の命は私が守る 仲間の命も私が守る」を1人ひとりが心に刻みながら、これからも日々の業務を安全最優先で取り組んで参ります。